

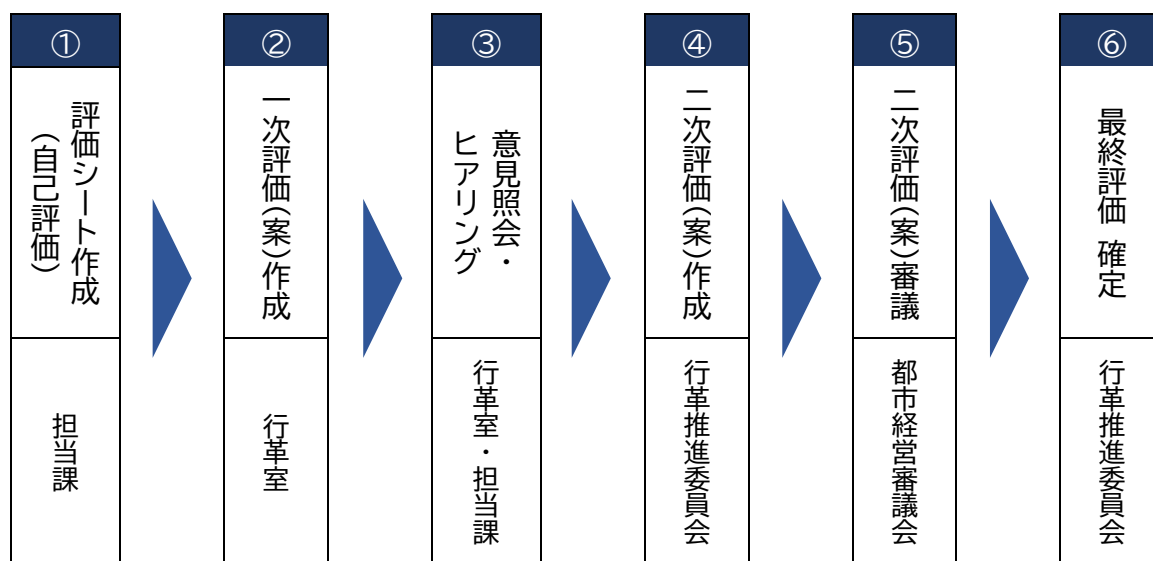
令和6年度（令和5年度実績）事務事業評価の結果について

本市が実施する事業のうち市の裁量で実施する政策的な事業に関し、令和5年度実績について事務事業評価を実施し、その評価が確定しましたので報告します。

1. 評価の実施方法

評価は次の手順で実施しました。

- ① 事務局である行財政改革推進室で選定した対象事業について、事業の担当課で評価シートを作成し、自己評価を行いました。
- ② 提出された評価シートに基づき、事務局において一次評価案を作成しました。
- ③ 一次評価案について担当課に意見照会し、ヒアリングを行ったうえで調整を行いました。
(a：良好、b：一部課題・指摘事項あり、c：不十分)
- ④ 一次評価での3項目（必要性・有効性・効率性）の内容を基に、事務局で二次評価と最終評価案を作成し、行革推進委員会において内容を確認いただきました。
- ⑤ 外部委員で構成する都市経営審議会において、抽出した一部の事業の評価案について審議いただきました。
- ⑥ 審議会での意見を踏まえ、行革推進委員会において最終評価を確定しました。



2. 評価結果

今年度の評価は、評価結果を次年度予算編成に反映させることと、事業の効果向上に主眼を置いた昨年度までの方法をベースにしつつ、対象事業の再確認を行い、111の事業を対象として実施しました。また、昨年度と同様に、都市経営審議会では特に意見を伺いたい9つの事業に絞って担当課も同席のうえで審議をいただき、その意見を評価に反映させました。

最終評価は、継続、要検討、要改善、廃止の4段階で評価を行いました。個々の事業の評価結果は別添評価結果一覧表と評価シートを参照ください。

<評価結果まとめ>

最終評価	内容	R 5 年度	R 6 年度
継続	事業の実施状況に問題がなく、継続することが妥当と評価されるもの	37 事業 (35%)	52 事業 (47%)
要検討	事業を継続することが妥当と評価されるが、一部見直しの検討が必要なもの	47 事業 (45%)	38 事業 (34%)
要改善	事業の実施状況に課題があり、改善が必要なもの	21 事業 (20%)	21 事業 (19%)
廃止	事業を取り止めるべき、または、取り止めても支障がないと判断するもの	0 事業	0 事業
計		105 事業	111 事業

昨年度と比較して、今年度は全体的に評価結果が向上しました。この要因としては、ほとんどの事業が昨年度から継続して評価を行っているため、昨年度に指摘した事項が改善されたこと等により、指摘事項が減少したことが大きいと考えられます。

3. 来年度に向けた実施方法の見直し

令和2年度から5年間にわたり評価を行ってきましたが、歳出削減に繋がるような見直しは既に議論を尽くしており、近年はいかに事業効果や効率を高めるかといった視点で評価を行ってきました。その結果、着眼点が総合計画の施策評価と重複してきていることから、評価を統合して事務の効率化を図ることができないか、来年度に向けて検討していきたいと考えます。